



# こうごしま No.197 議会だより

令和5年8月18日 発行／神津島村議会 編集／議会だより編集委員会 ☎ 04992(8)0011  
議会だより編集委員会 委員長 中村 親夫 副委員長 小林正吾郎 委員 清水勝彦 委員 鈴木佑典  
<https://vill.kouzushima.tokyo.jp/> E-mail [kouzu@vill.kouzushima.tokyo.jp](mailto:kouzu@vill.kouzushima.tokyo.jp)



海上安全祈願祭（7月3日）

## 目 次

- ◇令和5年第2回臨時会 ..... 2  
委員会構成、議長就任の挨拶、副議長就任の挨拶、第2回臨時会議決結果
- ◇令和5年第2回定例会 ..... 3  
第2回定例会議決結果、議員講演会報告
- ◇令和5年第2回定例会 ..... 4～5  
一般質問（2名の議員）
- ◇令和5年第2回定例会 ..... 6  
審議された議案の質疑応答、議会日誌、編集後記

## 委員会構成について

(◎委員長・○副委員長)

常任委員会構成		議会運営委員会	議会だより編集委員会
経済民生委員会	総務文教委員会	氏名	氏名
氏名	氏名		
◎ 清水 勝彦	◎ 清水 勉	◎ 鈴木 佑典	◎ 中村 親夫
○ 鈴木 佑典	○ 中村 親夫	○ 関 真樹	○ 小林 正吾郎
関 真樹	鈴木 国忠	鈴木 国忠	清水 勝彦
小林 正吾郎	石田 隆美智	清水 勉	鈴木 佑典
		小林 正吾郎	

※経済民生委員会…土木・農林・簡易水道・商工・観光・社会福祉・保健衛生・国保に関すること。

※総務文教委員会…村政一般・消防・財務税務・教育及びその他・他の委員会に属さない事項。

## 議長就任の挨拶

議長  
石田 隆美智



この度、議長選挙により議長に選出させていただきました石田です。議長として行政と協力しながら、行政の進める政策に議会として協力していきたいと思っております。また、皆さんの協力を得ながら議会の運営をしっかりとしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

## 副議長就任の挨拶

副議長  
小林 正吾郎



議員各位のご推挙により、神津島村議会副議長に就任いたしました小林です。

微力ではございますが、石田議長を支えるとともに、皆様のお力添えをいただきながら、円滑な議会運営と本村のさらなる発展、活性化に努めてまいります所存です。議員の皆様並びに村長をはじめ執行部の皆様方のご指導、ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。

## 神津島村議会第2回臨時会 議決結果

開会日：5月8日(月)

議案番号	議案件名	審議結果
同意第3号	監査委員の選任について	原案同意
承認第3号	専決処分の承認を求めることについて (神津島村税条例の一部を改正する条例)	原案承認
議案第27号	令和5年度東京都神津島村一般会計補正予算(第1号)	原案可決

## 神津島村議会第2回定例会 議決結果

開会日：6月12日(月)

議案番号	議 案 件 名	審議結果
同意第4号	神津島村農業委員会委員の任命ついて	原案同意
議案第28号	神津島村税条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第29号	清掃センター施設整備更新工事請負契約	〃
議案第30号	村営バス購入契約	〃
議案第31号	令和5年度東京都神津島村一般会計補正予算（第2号）	〃

### 議員講演会報告

小林 正吾郎 議員

5月22日、アジュール竹芝にて、東京都町村議会議員講演会が開催されました。講師は、法政大学法学部教授「土山希美枝氏」演題は「質問力を高める、議会力にいかす～政策資源としての一般質問」

一般質問とは、議員が自分の活動と知見を集約し、我が村の政策、制度の争点を提起し監査、提案できる機会であること。議会の一部である議員が行政の政策執行の在り方に監査、提案することで、自治体政策を間接的に制御する機会であるということです。

講師による提案、先行事例の紹介であったのは、複数の議員が同じテーマについて異なる論点や視点で質問を行うことで、一人でやる一般質問の限界を超える議員間連携や追加的にほかの議員が（回数、時間を限って）

質問することを認める関連質問。

一般質問を議員が共有する村の課題として委員会の所管事務調査や委員会代表質問の導入検討。全議員参加の一般質問検討会議（磨き上げ）などでした。

議員一人ひとりが研鑽を重ねることはもとより、議員間の議論、対話を通じ連携することで議会力を向上し、我が村の政策、制度は議会があるから（行政だけより）よい状態であると村民からの評価を得られるよう、これからも努めてまいります。



# 一 般 質 問

中村 親夫 議員



## 社会動向を見据えた 確実な財源確保について

① 一村の健全財政を維持するためには財源確保の努力を行っていく必要がある。地方自治体の財源には、自主財源と依存財源があり、自主財源は、市町村税、分担金、使用料及び手数料、財産収入、寄付金等からなっている。依存財源は地方交付税、国庫支出金等、都支出金等である。

自主財源については、村の人口も微減であり、村税収入は横ばいで多くは望めない。寄付金（ふるさと納税）について調査した。令和元年度490万円、令和2年度894万円、令和3年度となっていて平成30年度より大幅に増加している。自主財源の現状とふるさと納税が増加になった要因は。

② 加速する少子高齢化や景気の低迷により自主財源の確保が、今後ますます厳しいものとなっていくことを予想している。これらの諸問題を解決すべく、令和2年度には第2次神津島村人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生戦略を策定し、令和3年度には神津島村第5次総合計画を策定するなど、基本計画を軸とした行財政運営を展開するとともに、村税、使用料や手数料、寄付金などの自主財源の確保に向けて、確実な取り組みを実施しているところである。

ふるさと納税における総務省や各種リサーチ会社の調査によると、納税の目的として、43%の方が返礼品目的であるという結果が出ている。各種調査結果を踏まえ、本村の取り組みとして、返礼品取り扱い数を令和元年は3品目であったが、現在は21品目へと増やすとともに、2企業とポータルサイトの契約をするなど、納税者に選ばれやすい自治体を目指

している。令和2年、3年と納税額が多くなったのはZOZOの前澤さんから、2年連続で500万円づつ納税をいただいた結果である。

## 星空保護区認定までの経緯と 認定後の取り組みについて

③ 一村は星空保護区認定後の取り組みとして、星空ガイド養成講座を開設した。

また、星空保護区のロゴマークを作成、車両マグネットを島民に配布。12星座のベンチを展望台等に設置した。また、(株)コニカミノルタ主催であるがヒーリングプラネタリウム「星夜に浮かぶ島」を、都内の3か所のプラネタリウム館で上映した。星空保護区認定後の取り組みを実施した結果の思いと、今後來島客増を目的とした観光振興を図るため、どのような施策を講じていくのか。

④ 住民、来島者の皆様から星空に関して好意的な意見が聞かれるようになった。

海岸では、ウミガメの産卵も確認され、少しずつではあるが、星空保護区の認定、光害対策の効果が出始めている。児童・生徒への環境教育、そして星空ガイドの養成などを、継続的に実施していく。観光振興の一環として、星空は冬の澄んだ空気の時が鮮明に見えるので、夏季観光集中型の観光を打破して、周年観光につなげていければと考えている。



# 一 般 質 問

鈴木 佑典 議員



## 農業振興神津島ファームについて

村長の令和5年度村政運営基本方針、農業振興 神津島ファーム整備について、共同経営化、新規作物試験栽培、地産地消、経営安定化、肉体的および経済的な軽減の推進、熱意と施策は歓迎できるが具体的なビジョンの共有が振興と活性化に重要と考える。

①—計画と具体的な作物、生産量、収入額目標、担い手と活性化への取り組みについて伺う。

②—令和5年度に焼山地区7,355平米の未利用を農地として約5,100平米を伐根伐採し農地造成。老朽化ビニールハウス8棟を撤去、新たにビニールハウス10棟建て替え予定。栽培作物は農協や農業者との協議にて決定。レモン、パパイヤなど新規作物、キュウリ、トマト、キャベツ、ブロッコリーなどの季節野菜を栽培予定している。

ブランド化を目指すレモン栽培目標、1棟当たり収穫量を最終的に1,000個から1,500個、現在八丈島1個当たり800円から1,000円で取引されており、神津島は昨年度、個数は少なく地元消費で1個300円。今後単価を500円、600円と良品質、ブランド化を図る。

新規ハウスは認定農業者がメイン、自家野菜園、栽培経験ある民宿や子育て世代など兼業的農家も対象。ハウス増設後、新規就農者も加え農業技術の継承、担い手育成を図る。

③—農業経営共同化、負担軽減、デジタル化について具体的な施策を伺う。

④—高齢化と担い手不足、費用負担により農業の継続が困難。村が設備投資を担い、共用ハウスでの共同作業にて労働力と費用の負担を軽減、農業技術の継承を図る。未利用地へ新たに10棟ハウスを

増設、農地拡大と生産性向上、新規作物の試験栽培に活用。地産地消の島内消費を重視、余剰生産物は島外に出荷を考慮。デジタル化について具体的な計画は未定、サステナブル・アイランド事業の一環として、デジタル技術導入を検討する。

⑤—住民の共感と協力が実現に向けて欠かせないと思うが、住民がどのように参画するか伺う。

⑥—令和4年度から認定農業者を中心にヒアリングを実施、経営形態や栽培作物などを検討。令和6年度以降ハウス増設やサステナブル・アイランド事業において、既存の農業経営者だけでなく新規就農者の参加や施設の運営も考慮した計画を予定。

⑦—村政運営基本方針ビジョンについて、住民への周知、情報発信、理解が参加意欲を高めると考えるが具体的な取り組みについて伺う。

⑧—令和6年度運用に向けて説明会を開催予定。農協、認定農業者、兼業農業者への説明会や農業委員会だよりにて計画の周知、概要説明、意見募集など村民向けの情報提供を予定。村政運営の基本方針、情報は必要な範囲で共有されるべきと考えており、個別に必要な情報を提供。議員も情報提供に協力する姿勢をお願いしたい。

村は収入と労働経費のバランスを重視し農業者増加を支援。収入増には生産量や輸送コストを考慮、地産地消の促進も重要。人口減少や高齢化に対応するには、教育、観光、福祉など多様な連携が活性化に必要。休耕地については、農地バンクや健康・幸福度の向上など、農業を中心とした多角的なアプローチが考えられる。村長リーダーシップのもと、住民が一体となって農業振興に取り組めるよう期待。

## 令和5年第2回神津島村議会定例会 審議された議案の質疑応答

### 議案第28号

#### 「神津島村税条例の一部を改正する条例」

国の税改正により、特定の小型原動機付自転車（電動キックボード）の軽自動車税の区分変更。

①—電動キックボードの税額は、いくらになったのか。

②—課税額3,700円（三輪タイプ）が、2,000円の区分に移行される。神津島での対象車両はない。

### 議案第29号

#### 「清掃センター施設整備更新工事請負契約」

①—炉内の清掃については、毎年行うように定められているのか。

②—炉内清掃については、毎年行うよう定められていないが、ばいじん等の有害部室を施設外に排出しないよう毎年行うことが必要と考える。

③—清掃センターは稼働してから何年経過しているか。また、炉本体の更新は、あったか。

④—本村の清掃センターは平成6年から運転が始まり29年経過している。

燃焼炉全体の取り換えは、行っていないが、たえず部分的に補修を行い延命化を図っている。

### 議案第30号「村営バス購入契約」

①—村営バスの稼働率を向上させる施策等はあるか。

②—今後、空港への直通バスも検討に入れ利用率の向上を図っていく。

### 議案第31号「令和5年度東京都神津島村一般会計補正予算（第2号）」

①—温泉小露天風呂の工事内容は。

②—工法については岩盤接着工（表面の亀裂等をモルタルで塞ぐ）、鉄筋挿入工（亀裂に対して鉄筋を挿入し亀裂が広がらないようにする）、ロープネット工の3種類。

③—現在、午後2時からの開館としている温泉の営業時間、午前11時頃からの開館にできないか。

④—臨時作業委託により手際よく準備ができるようになれば、7月以降は11時の開館を目指して、繁忙期の対応を考えたい。

⑤—庁用車購入は、どのようなタイプの車を予定しているのか、また東京都の支出金で100%賄えるのか。

⑥—車両のタイプは、7人乗りの乗用車。ガソリンと電気を利用したハイブリッドタイプ。

購入財源は市町村総合交付金で10分の10の補助。

## 議会日誌

令和5年

3月 8日 令和4年第1回定例会（10日まで）

29日 令和4年第1回定例会（再開）

4月 16日 阿波命神社 例大祭

28日 議会だより編集委員会（196号）

令和5年第1回定例会会議録署名

5月 8日 令和5年第2回臨時会

13日 島じまん2023（14日まで）

5月 15日 東京都島しょ町村議会議長会第1回臨時総会

16日 ジュリア東京会議

18日 令和5年度大島支庁管内都事業説明会

20日 第84回黒船祭

22日 東京都町村議会議長会第1回定期総会

東京都町村議会議員講演会及び意見交換会

23日 町村議会議長・副議長研修会

27日 中学校四島大会（神津島開催）

6月 8日 令和5年第2回定例会議会運営委員会

## 編集

## 後記

地球温暖化の影響か日本近海の海水温が上昇している。2020年8月に東京都島しょ農水センター大島事業所は「大島事業所トピック」400号で平成29年の8月以降黒潮大蛇行が継続していて、2018年の大島の水温は神津島の平年値に近く、神津島の水温は八丈島の水温近くになっている。

冬期の海水温上昇が顕著で、海水温上昇による磯焼けが原因で天草やトサカノリ等の海藻類、貝類、イセエビなど磯根資源の漁獲が大きく減少している。持続可能な漁業の実現と水産業の強化を図るため伊豆諸島の藻場の維持、回復を図るための調査、漁場の造成などが喫緊の課題と考える。5月18日に生きがい健康センターで実施された大島支庁事業説明会において、漁

業資源の管理について島しょ農林水産総合センター大島事業所ではアントクメ藻場造成技術の開発を行っている。今後は、事業化を行ったスポアバック法による藻場造成の効果の把握を大島町、利島村と共同で行うとともに、魚や貝類による幼芽の食害対策を講じることにより、確実性の高いアントクメ藻場造成手法の確立を目指していくとしている。

\*アントクメは伊豆諸島に分布するコンブ科の海藻で、貝類の餌やイセエビ、幼稚魚の隠れ場所として重要な役割を果たしている。

「議会だより」  
編集委員会  
一 同

委員長 中村親夫  
副委員長 小林正吾郎  
委員 清水勝彦  
委員 鈴木佑典